

平成30年度 行政評価表：上下水道部工務課

【Plan】計画 / 【Do】実施																	【Check】評価 / 【Action】改善														
施策名	事業名	事業・取組概要	事業評価の活動指標(目標・実績)									事業評価の成果指標(目標・実績)						H29年度			H30年度			事業成果の評価		予算・コストの評価		見直しの方向性(担当者評価)			
			H29年度			H30年度			H29年度			H30年度			決算額(千円)	予算額(千円)	決算額(千円)	成果向上余地はあるか	評価の理由	コスト削減余地はあるか	事業評価	1次評価(担当者評価)		2次評価							
			指標	単位	目標	実績	達成率	指標	単位	目標	実績	達成率	指標	単位								目標	実績	達成率	指標	単位	目標	実績	達成率	事業評価	評価の理由
施策体系外事業	公共下水道建設事業(純単)	公共下水道建設事業(単独一般及び社会資本整備総合交付金事業)に係る職員の人件費を支出する。	下水道事業の計画	式	1	0	0%	1	0	0%	下水道事業の計画	式	1	0	0%	1	0	0%	33,172	32,668	31,398		人件費は義務的経費であり、評価にそぐわない。		人件費は義務的経費であり、評価にそぐわない。	維持	当事業では、職員の人件費のみを事務事業として取り組むこととなっており、人件費は義務的経費であるため。	人件費以外については要求しない。	改善	現在下水道事業の法適化及び水道部との統合が進められており、その中で組織改革も検討している。	
施策体系外事業	公共下水道建設事業(単独一般)	公共下水道の建設 全体計画区域：1,526ha 全体計画処理人口：31,800人 全体事業費：654億円 実施認可区域：1,234ha 実施処理人口：30,300人 処理区：伊万里処理区 排水区：立花、伊万里、二里、東山代、大坪、牧島 平成30年度は、民間開発地を主として、起債事業により下水道の整備を行い、区域内の整備率向上に努める。	認可区域の整備率	ha	86	86	100%	86	86	100%	水洗化率	%	97.8	97.2	99%	97.8	97.2	99%	17,115	16,269	16,138	低	認可区域内を年次的に整備しており、向上の余地は低い。	なし	工事においては市場単価や施工単価の採用、汚水管浅埋設や再生材の利用など経費削減に努めている。さらなる削減の余地はない。	維持	事業認可区域内の整備を年次的に進め、施設を維持する必要があるが、将来的には、区域拡縮等の整備計画の見直しが必要である。	事業認可区域内の整備を年次的に進め、また施設を維持する必要があるため、R元年度程度は要求したい。	維持	認可区域内を年次的に整備するとともに、水洗化率100%を目指す。	
施策体系外事業	公共下水道建設事業(社会資本整備総合交付金)	公共下水道 全体計画区域：1,526ha 全体計画処理人口：31,800人 全体事業費：654億円 実施認可区域：1,234ha 実施処理人口：30,300人 処理区：伊万里処理区 排水区：立花、伊万里、二里、東山代、大坪、牧島 交付金を活用し、汚水及び雨水処理施設の長寿命化対策を実施する。(繰越)	施設の更新(繰越)	件	-	-	-	9	9	100%	施設の改善	件	-	-	-	9	9	100%	-	566,884	566,883	低	機能診断の結果に基づく長寿命化実施計画を策定し、計画的に更新を実施している。	なし	更新計画策定及び実施設計段階において、単価及び工程等について精査し、経費削減に努めている。	維持	供用開始から30年以上が経過しており、計画的な更新を行うことで施設及び設備の長寿命化を図る必要がある。	長寿命化実施計画に基づき松島雨水ポンプ場の主ポンプを更新する。令和2年度以降の更新計画を策定するため、ストックマネジメント基本計画を作成する。	維持	処理施設の機能を継続し、快適な生活環境の確保と公共用水域の水質を保全しなければならない。	
防災の推進	浸水対策事業	公共下水道の建設 浸水対策下水道事業 全体面積 A=1,526ha 認可面積 A=1,234ha 松島掘地区 ・浸水面積 A=29.5ha ・馬伏雨水幹線 L=1,080m ・排水ポンプ場 1箇所 ・調整池 1箇所 平成29年度は、雨水渠の整備を行い浸水被害を軽減する。(繰越)	雨水管渠整備延長	m	-	-	-	100	359	359%	浸水被災回数(市道冠水)	回	-	-	-	0	0	100%	-	50,910	50,910	低	ポンプ場については完了したが、常襲水害を軽減するためには、雨水渠の整備を早期に完了することである。	なし	設計では、市場単価や施工単価を採用し、工事については再生材の利用など経費削減に努めており、さらなる削減の余地はない。	完了	令和元年度で当地区の浸水対策工事は完了予定である。	予算要求なし。	完了	計画の工事は、完了予定であるが引き続きポンプ場・雨水渠・調整池の維持管理が必要である。	